

# 雪あそびにおおはしやぎ



勢いよく斜面を滑る園児たち

雪たまるまを作る園児たち



橋本幼稚園の園児143人が1月31日、隣接する橋本小学校の校庭で雪あそびを楽しみました。



園イベントは園児たちに八幡ではあまり積もることのない雪とのふれあいを楽しんでもらおうと、PTAが企画。バザーや廃品回収の収益金を元に行われました。

## 橋本幼稚園 PTAが企画

長靴にスキーウェア姿の園児たちは南丹市美山町から運ばれた高さ約2メートルの雪山に大興奮。記念撮影が終わると、はやる気持ちを抑えきれず、一斉に雪山にかけ登りました。サクサクとした雪の感触に歓声をあげながら、雪合戦やソリ滑りなどに夢中になっていました。

山本真瑚ちゃん(5)は「あんまり雪が積もらないから、今日はソリ滑りも出来て楽しかった」と満面の笑みを浮かべていました。

## 第2回わくわく関西カップ」開催



寝技の攻防をする選手たち

障がい児者のレスリング大会「第2回わくわく関西カップ」が2月16日、京都八幡高校北キャンパスで行われました。

関東や関西のレスリングクラブに所属する10歳から40歳までの25選手が参加し、熱戦を繰り広げました。同大会は同校で活動する「わくわく楽しいレスリング教室」の主催で、レスリングを通じてダウン症児者・自閉症者などの心身の育成が目的です。

試合は首への攻撃を禁止するなど特別ルールで、年齢や体重別に設けられた個人戦5部門とチーム対抗の団体戦が行われました。

選手たちは家族などの大きな声援を受けながら、低い姿勢で素早くタックルを試みるなど、日頃の練習の成果を発揮していました。中学生以上の重量級で優勝した小林優介さん(18)は「支援学校の先生にも教わりながら練習していたタックルを決めて優勝することが出来て嬉しい」とこやかに話していました。

「やわ筋ディング」の説明をする中学生グループ

# まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 力合わせて「鬼は外!!」

園児の健やかな成長を願って、節分行事が2月1日、八幡幼稚園で行われました。園児87人は市商工会青年部員が扮する鬼に向かって元気いっぱい豆まきをしました。

同会は地域貢献の1つとして、園児たちに伝統行事である節分を知ってもらおうと、毎年市内の幼稚園などに協力しています。

大太鼓の音が「ドン、ドン、ドン」と園庭に鳴り響くと、「オー」とおたけびをあげながら6人の赤鬼、青鬼が登場。

突然現れた鬼たちに驚き、泣き出す園児もいたものの、園児たちは力を合わせて「鬼は外、福は内」と大きな声を出しながら鬼たちに豆を投げつけていました。

豆まきが終わると部屋に戻り、園児たちは豆を食べながら「弱虫鬼」、「泣き虫鬼」など自分の中の悪い鬼を追い払いました。

宮崎倫子ちゃん(4)は「赤鬼が怖くて最初は逃げていたけど、頑張って豆まきをして強くなれた」と嬉しそうに話していました。



力を合わせて鬼に豆を投げる園児たち

## まちづくりを市長に提言

子ども目線でまちづくりについて考える「八幡市子ども会議」の委員たちが2月17日、松花堂美術館で堀口市長に取りまとめたアイデアを提言しました。

同会議は立命館大学政策科学部稲葉ゼミと連携して行われ、今年で9回目。昨年7月から市内の小中高生32人が4グループに分かれ、「地域振興」や「交通ルール」など、まちの課題を話し合い、調査活動を行ってきました。「たけのこで地域振興」をテーマにした中学生のグループは、誰もが気軽に

### 八幡市子ども会議

に楽しめる食べ物で世代を超えた交流の輪が広がるように、八幡の特産品タケノコを使ったプディング「やわ筋プディング」の作製を提案し、試作品を披露しました。

また、別のグループは自転車安全利用者カードや避難場所を描いたトートバッグの作製などを訴えました。

「たけのこで地域振興」について提言した芦田雄祐さん(14)は「みんなで意見を出し合い、1つのことに取り組み合せて楽しかった」と充実感を漂わせていました。